

力学講義レポート問題 5/26 (2003)

(提出期限：6月2日 授業終了直後)

1. 1次元の力が $F(x) = -kx$ の時を考える.

(a) 1次元の Newton 方程式 $m\ddot{x} = F(x)$ を1回積分して、

$$\frac{1}{2}m\dot{x}^2 + \frac{1}{2}kx^2 = E$$

を示せ. 但し、 E は積分定数である.

(b) この運動の周期は

$$T = 2 \int_{x_1}^{x_2} \frac{dx}{\sqrt{\frac{2}{m}(E - \frac{1}{2}kx^2)}}$$

で与えられる. ここで、 x_1, x_2 はルートの中がゼロであるという条件により、決定される. よって、 $x_1 = -\sqrt{\frac{2E}{k}}$, $x_2 = \sqrt{\frac{2E}{k}}$ である. この時、周期 T を求めよ.

2. 極座標 (r, θ, φ) とデカルト座標 (x, y, z) の関係は

$$\begin{cases} x = r \sin \theta \cos \varphi \\ y = r \sin \theta \sin \varphi \\ z = r \cos \theta \end{cases}$$

である.

(a) この時、 $0 \leq \varphi \leq 2\pi$ であり、 $0 \leq \theta \leq \pi$ である. この逆 $0 \leq \varphi \leq \pi$ 、 $0 \leq \theta \leq 2\pi$ では極座標での微小体積 $dV = r^2 dr \sin \theta d\theta d\varphi$ はどうなるか? また、 θ の範囲が 2π までとするとどうなるか.

(b) $(ds)^2 = (dx)^2 + (dy)^2 + (dz)^2$ を極座標で表せ.

(c) 極座標での単位ベクトルは \mathbf{e}_r , \mathbf{e}_θ , \mathbf{e}_φ であり、デカルト座標の単位ベクトルと次の関係式で結ばれている.

$$\begin{cases} \mathbf{e}_r = \sin \theta \cos \varphi \mathbf{e}_x + \sin \theta \sin \varphi \mathbf{e}_y + \cos \theta \mathbf{e}_z \\ \mathbf{e}_\theta = \cos \theta \cos \varphi \mathbf{e}_x + \cos \theta \sin \varphi \mathbf{e}_y - \sin \theta \mathbf{e}_z \\ \mathbf{e}_\varphi = -\sin \varphi \mathbf{e}_x + \cos \varphi \mathbf{e}_y \end{cases}$$

この時、 \mathbf{e}_r , \mathbf{e}_θ , \mathbf{e}_φ の時間微分が

$$\begin{cases} \dot{\mathbf{e}}_r = \dot{\theta} \mathbf{e}_\theta + \dot{\varphi} \sin \theta \mathbf{e}_\varphi \\ \dot{\mathbf{e}}_\theta = -\dot{\theta} \mathbf{e}_r + \dot{\varphi} \cos \theta \mathbf{e}_\varphi \\ \dot{\mathbf{e}}_\varphi = -\dot{\varphi} \sin \theta \mathbf{e}_r - \dot{\varphi} \cos \theta \mathbf{e}_\theta \end{cases}$$

となる事を示せ. ただし、デカルト座標の単位ベクトルは時間によらない.